

枝幸町問牧沖で混獲されたオホーツク海 新産のリュウグウノツカイについて

臼井平^{1,2}

¹ オホーツクミュージアムえさし, ² オホーツク魚類研究会

A new record of Oarfish *Regalecus russelii* (Cuvier, 1816) from Okhotsk Sea, Off Toimaki, Esashi-Town, Northern Hokkaido, Japan

Taira USUI^{1,2}

¹ Okhotsk Museum Esashi, 1614-1 Mikasa-cho, Esashi-cho, Esashi-gun, Hokkaido 098-5823, Japan ² Okhotsk Fish Conservation Society, 253-4 Midori, Bihoro-cho, Abashiri-gun, Hokkaido 092-0002, Japan

Abstract: The first specimen of *Regalecus russelii* (Cuvier, 1816) collected in Okhotsk sea, Esashi-town, Northern Hokkaido, Japan. In October 2th, 2013, this specimen was caught by by-catch in salmon set net at off Toimaki, Esashi-town (45° 00'N, 142°34'E, at 22m Depth). Body measurements, meristic characters and morphological data are given below in Table.1.

キーワード: オホーツク海, リュウグウノツカイ, 初確認, 北海道, 枝幸町, 混獲

Key word: Okhotsk, Oarfish, First record, Hokkaido, Esashi Town, Bycatch

リュウグウノツカイ *Regalecus russelii* (Cuvier, 1816) はアカマンボウ目リュウグウノツカイ科に属しており, 大型の個体で 5.5m にも達する大型の海水魚である (林 2000). 本種は, 日本周辺では太平洋側で銚子沖から鹿児島湾, 日本海側では青森県沖から北九州沖にかけて分布し, 沖合の中深層を主な生活域とすると考えられている (崎山ら 2012). 一方で, 北海道における本種の報告例は少なく, 太平洋側で 3 例, 日本海側で 2 例の報告がある程度にとどまっており (高柳ら 2003), オホーツク海沿岸でのリュウグウノツカイの報告例はこれまで無かった. しかし, 2013 年 10 月に,

オホーツク海沿岸の枝幸町沖より本種が確認されたので, オホーツク海新産として, ここに報告する.

2013 年 10 月 2 日に, オホーツク海沿岸に位置した枝幸町問牧の沖合 2.9km 地点水深 22m の位置 (45° 00' N, 142° 34' E) に仕掛けた定置網にリュウグウノツカイと思われる標本が得られた (Fig.1). 標本は損傷が著しく, 胴体は中央付近で折れており, 背鰭の棘および軟条, そして左右の腹鰭が途中で折れて欠損してはいたが, 精査してみたところ, 体が著しく側扁し細長く, 腹鰭は 1 条で細長く, 体は銀白色で暗色小斑が見られたことからリュウグウノツカイと同定さ

¹ 〒 098-5823 北海道枝幸郡枝幸町三笠町 1614-1, UsuiTaira@townesashi.hokkaido.jp, ² 〒 092-0002 北海道網走郡美幌町字美禽 253-4 美幌博物館気付,



Figure 1. リュウグウノツカイ *Regalecus russelii*, OME13-0132, OMEB13-0004, 全長 (TL)1726mm, ▲は肛門の位置を示す

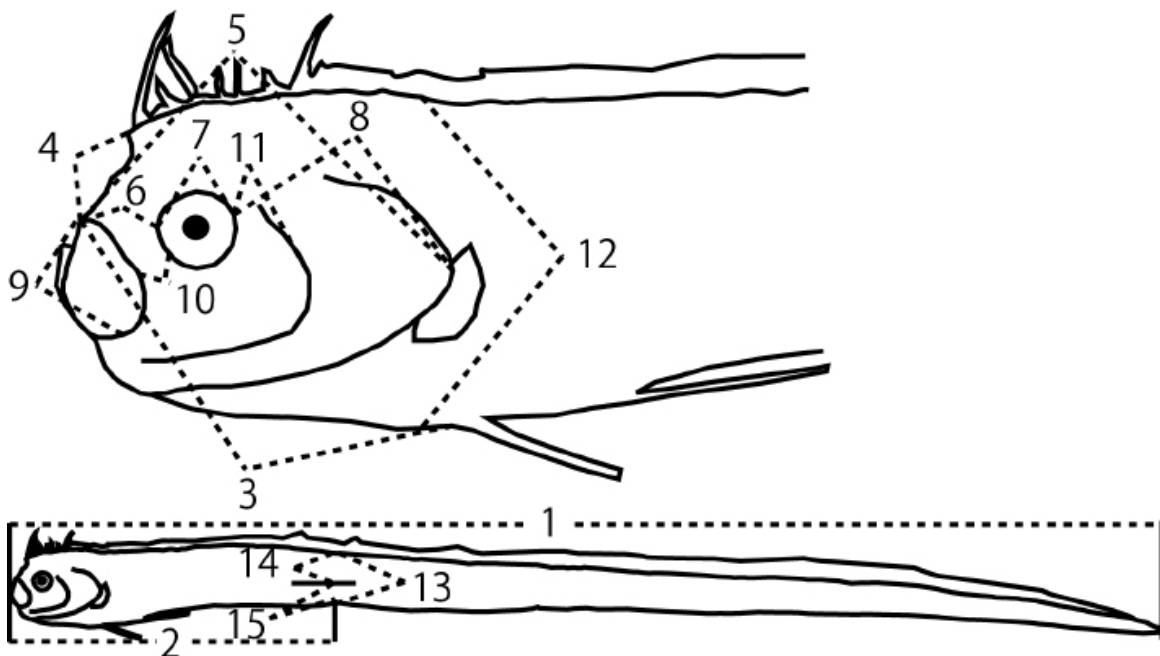


Figure 2. 崎山ら (2012) を参考にしたリュウグウノツカイ *Regalecus russelii* の計測部位 (番号は Table.1 に対応)

れた。標本は、DNA 資料として本個体より筋肉組織の一部を採取し 99.5%のエタノールに浸し冷凍庫に保存し、また体は 8%のホルマリンに浸し保存した。双方の標本は枝幸町の博物館施設オホーツクミュージアムえさしの資料として登録・保管した (OME 13-0132, OMEB 13-0004)。

本標本は、崎山 (2012) を参考にスケールを用いて詳細な計測をおこなったが、鰭の損傷が著しいため、計測は、損傷の影響が及ばない部位のみで行った。計測の結果は table.1 に示した。

本標本が得られた後、2013 年 10 月 15 日に羅臼沖においてもリュウグウノツカイがサケの定置網に混獲されたが (釧路新聞 2013)、この情報を含めても北海道での記録は少なく、本種がオホーツク海を含め、北海道に分布しているとは考えにくい。本種が、日本国内の北海道以

南において、しばしば沿岸に漂着し話題になることから、温暖な地域から対馬海流などの暖流によって偶発的に北海道まで回遊してきたものである可能性が高い。今後、地球温暖化の影響による海水温の上昇が、本種の分布および回遊にどのような影響を与えるのか着目していくことが望ましい。

標本

北海道枝幸町間牧沖. 45° 00' N, 142° 34' E 水深 22m, 1 個体. OME13-0132. OMEB13-0004. 2013. X. 2. 白井平採集

謝辞

サケ定置網に混獲されたリュウグウノツカイを提供していただいた清水定幸氏、桔梗琢也氏、そしてそのほかの漁業に携わる皆様には、このよう

Oarfish <i>Regalecus russelii</i>		
from Okhotsk sea, off Esashi		
Counts:		
1	Dorsal-fin rays	297
2	Soft ray of dorsal fin opposite to anus	63
3	Gill rakers	57
Measurements(mm):		
1	Total length	1726
2	Preanal length	473
3	Prepelvic length	128
4	Predorsal length	33
5	Head length	127
6	Snout length	26
7	Eye diameter	25
8	Postorbital length	76
9	Upper jaw length	49
10	Suborbital width	12
11	Cheek width	34
12	Body depth at head	113
13	Body depth at anus	82
14	Depth above lateral line at anus	61
15	Depth below lateral line at anus	21

Table 1. リュウグウノツカイ *Regalecus russelii* の計測値

な貴重な標本を寄贈していただいたことに対してこの場を借りて感謝の意を表する。

引用文献

- 『釧路新聞』. 2013年10月16日.
- 崎山直夫, 瀬能宏. 2012. 相模湾におけるリュウグウノツカイ (アカマンボウ目リュウグウノツカイ科) の記録について. 神奈川自然誌資料 33:95-101.
- 高柳志朗, 坂口健司. 2003. 余市白岩沖の大謀網に迷い込み, 後に中央水試に持ち込まれた2尾のリュウグウノツカイ. 北水試だより 60:42-43.
- 林公義, 2000. リュウグウノツカイ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索: 全種の同定 第2版, pp.406, 1492. 東海大学出版会, 東京.